

昔も今も人が行き交う、銀座四丁目交差点

中央通りと晴海通りが交差する四丁目の交差点は、銀座の中心だ。中央通りは江戸時代には「通町筋」とよばれ、商店が並ぶにぎやかな大通りだった。江戸時代から現代に続く、銀座四丁目のにぎわいを見てみよう！

わ～、売ったり買ったり楽しそう。



しゃぼんだまー！
ふげば五色の
にじがでるー！

たけやあー
さおだけえー

江戸の通りに響く、物売りの声

江戸時代には、両天びんを肩に担ぎ、通りで物売り歩く「物売り」がいた。物売りたちは、口上といわれる独特のセリフを、歌うようにくりかえしながら、それぞれ豆腐や野菜、魚にベットの金魚まで売っていた。大通りには、毎日、物売りたちの声が響いていた。



明治

1911(明治44)年ごろの四丁目交差点。左に見える服部時計店(現・和光)の初代時計塔は、1894(明治27)年に完成した。1932(昭和7)年にできた現在の時計塔の文字ばんは、ほぼ東西南北を向いている。



大正

1923(大正12)年ごろの関東大震災後の四丁目交差点。服部時計店(現・和光)の改築の建設現場では、信号機かわりに、警察官が交通整理をしている。

四丁目交差点

雪の四丁目交差点。みんなスキーをはいている。1957(昭和32)年ごろ。

中央通り

昭和



服装が今とはちがうかな？



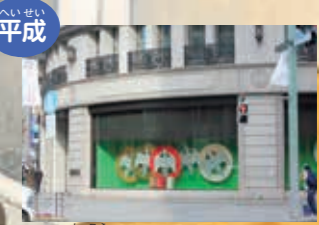
世界の流行の先端をいく町に

明治になって文明開化が進むと、銀座は西洋風の建物が建ち並ぶ町となった。その代表ともいえる服部時計店(現・和光)の時計塔が、銀座四丁目のシンボルとして、現在も町に時間を告げている。



平成

2013(平成25)年の歩行者天国。歩行者天国は、1970(昭和45)年から始まった(→p.130)。



平成

和光のショーウィンドー。1年で何度も変わるディスプレイは、いつも楽しみだ。

晴海通り

1961(昭和36)年の三越の屋上。今どうちがうかな？

昭和



きんぎょおーえー
きんぎょー
きんぎょあーえー
めだかー

金魚売り
子どもたちに人気の金魚売り。金魚を入れる金魚ばちもいっしょに売っていた。

唐辛子売り
紙をはってかためて赤く塗った、唐辛子の形の入れものに、唐辛子を入れて売り歩いた。

とろろがやがやが
ふりりと辛が山椒の粉
すはすは辛が胡椒の粉
七味唐がらー

玉屋
現代のシャボン玉を売っていた。当時は、ムクの木の実を煮たときに出るしるを石けんのかわりに、アシのくきをストローのかわりにしていた。

さお竹売り
もの干しざおにするための竹を売る。

どの物売りのセリフもリズムがいいね！

